

トロピカル・フラワーズ

阿久澤 宋太郎

私のよく旅行する所が熱帯地方なので、ずい分変わった花を目にすることがある。

最近ではグアム・サイパンあたりへ出かける人も多くなっているが、まず目を引くのがフレイム・ツリー *Flame tree* で真赤な花は熱帯の強烈な太陽の光に調和するように咲きほこっている。日本人はこれを「南洋桜」と称して親しんでいるという。

しかし、現地の人々はギンネムノキ

といわれる帰化植物が急速に繁殖し、至るところにはいりこんで困っているのでつよい関心を持っている。日本人の旅行者はあの白い花にエキゾチックなロマンスをかきたてられる。

ボルネオ地方にも何回か出かけ花に親しんでいると現地に住んでいる人たちと共通の感情のあることも感じるし、また、異なった感情を持っていることも感ぜられる。

ボルネオでは、どこの家庭でも庭木としてマンゴー (*Mangifera indica L.*) が植えられている。

これが独特のたたずまいをつくりあげている。花季は四月頃で実の熟すのは七月頃であるが、品種により大きい実のものもあるし、小さな実のものもある。

面白いことに一年中実が見られる。どこかの家の庭に実がなっているのが見られるのである。さしあたり、日本的に表現すれば「狂い咲きの花」に次々に実をつけるため、市場などには年中マンゴーの実が並べられている。

マンゴーの花は新しい枝の先に放射状に小さな花をいっばいつけるので見事ながめである。この花にいろいろ

るな昆虫がやってきて群れとんでいる。

となりの木にはマンゴーの実がなっているといった具合である。

家でマンゴーの実を食べるためにわざわざ木にのぼってもぎとってくるようなことはしないようである。

よく熟して木から落ちるとそれをひろってきて食べるのである。

このため独特のやわらかさと匂いがあり、これは熱帯独特のものである。

朝起きて、木の下へこの実をひろいにくくと、きまっていくつかは、ネズミにかじられている。ネズミも木から落ちてくるのを待っているから面白い。

夜半によくイヌが吠えるのでぞいてみると、木の下にむかって吠えている……ネズミが気になるのである。

これも面白いとり合わせである。

路傍に出ると、いわゆる華僑たちが南中花と称するアサガオの一種が至るところに咲いているし、また、相思樹 *Acacia* と称する木が至るところに植えられていて道路や広場などの景観をつくりあげている。

この樹もいわゆる狂い咲きが多く、どこかで黄色い花をつけているのが見られる。

ウツボカズラ *Nepenthes* もボルネオが故郷であるが、日本では食虫植物として知られているけれども、ボルネオでは捕虫袋の中にスコールの水がたまり、蚊の発生源になるといっているので目のかたきにされている。

若い捕虫袋はたしかに捕虫のはたらきをすることは、キナバル山登山の際、たくさん捕虫袋を割って調べてたしかめたが、少し古くなったものはその機能を失い、あとは蚊の幼虫の住家になっている。

しかし、若い捕虫袋の中に一種のナメクジが住みついでいて、やはり生物の世界は複雑な関係のあることを示している。

キナバル山及其周辺のだけでも十種類以上のウツボカズラが見られ、木の枝の上まではいのぼってたくさん捕虫袋をつけている様は壮観である。

やはり熱帯地方は花の豊庫であり、大きな花園であるといえるようである。

(お茶の水女子大学附属小学校)